# 【理学療法学科 教育目標】

#### 理学療法学科アドミッションポリシー

理学療法学科では、学校アドミッションポリシーに基づき、以下のアドミッションポリシーを定めます.

- 1) 自ら進んで挨拶ができる者.
- 2) 規則を守ることができる者.
- 3) 他者のための行動を実践できる者.
- 4) 他者の意見を受け入れ、尊重した上で、自分の意志を伝えることができる者.
- 5) 理学療法士になる夢を持ち、夢に向かった努力を継続できる者.

## 理学療法学科カリキュラムポリシー

理学療法学科では、学校カリキュラムポリシーに基づき、以下のカリキュラムポリシーを定めます。

- 1) 教職員と学生とのコミュニケーションを充実させ、お互いの信頼関係を築けた教育環境下において、教育を実践します。
- 2) 理学療法士として求められる, 基礎的な知識や技術を修得するための授業を実践します.
- 3) 将来, 社会に出た際に, 自らで考え, 行動が出来るような人材育成を心がけた授業を実践します.
- 4) 理論と実践応用力, 研究活動に必要な知識や技術を修得し, 理学療法の発展に貢献できる専門教育を行います.

### 理学療法学科ディプロマポリシー

理学療法学科では、学校ディプロマポリシーに基づき、以下のディプロマポリシーを定めます.

- 1) 理学療法士として必要な知識,技術を修得している.
- 2) 前に踏み出す力、考え抜く力、チームで働く力が身に付いている.
- 3) 挨拶、コミュニケーション、時間厳守等の社会人としての基本的な能力が身についている。
- 4) 向上心を持って学ぶ習慣をつけ、卒後も社会貢献するために、自己研鑽を行う意思またはその姿勢がある.
- 5) 積極的に他者と交流を図ることができる.

## 【理学療法学科 臨床実習 教育目標】

本学科が定める実習目標は、4 年間で卒前教育を完遂し、卒業後にメディカルスタッフとして理学療法を実践できる人材を育成することである.目標達成の前提には、養成校と実習施設間で築かれた、一貫した実習教育体制が必要であり、学生には実習教育の現場において、学内カリキュラム履修状況に合わせた知識と技術の実践が求められる.

本学科の規定する臨床実習は、対象者の"活動レベルの問題点"に焦点を当て、それらの要因を心身機能・身体構造レベルの事象と関連付けて思考する「トップダウン型」の理学療法体験を目指す、本学科の定める臨床実習形態は「診療参加型」とし、臨床思考の礎を育むために、精神運動領域(技能・技術の習得)の体験を重ね、認知領域として"問題点把握・Goal 設定・治療プログラム作成・効果判定"との関連を理解する。また対象者等を通じて多職種連携について学び、チームとしてのアプローチを経験する。

	4	
	一般目標	行 動 目 標
1 年 次	見学実習の目標は、医療現場で実施されている理学療法士の仕事を理解することである。また、社会人として適切な態度で実習に臨み、対象者や医療スタッフとコミュニケーションを図ることである。	・対象者との対応時に適切な態度・言葉使いができる。 ・理学療法士の業務内容を理解する。 ・関連職種の理解を深める。 ・当該施設の規則を遵守することができる。
2 年 次	検査測定実習の目標は,対象者の身体症状を観察し,"見学·共同参加·監視"の段階を踏まえて, 検査測定の多様性を体験することである.	・対象者に各検査項目の意義・目的を適切に伝えることができる。 ・心身機能・身体構造レベルに対する検査測定を体験し、対象者の身体状況に応じて可能な限り正確に実施することができる。また、動作分析を中心とした活動レベルに対する評価も可能な限り体験する。
3 年 次	評価実習の目標は、いわゆる「トップダウン型」の理学療法体験を通じて、問題点把握と Goal 設定の関連性を理解することである。「トップダウン型」の理学療法体験では、複雑な障害を呈さない対象者に対して、基本動作の分析を基盤に活動レベルを把握し、事前に収集した情報と組み合わせて、心身機能・身体構造に関する臨床思考(仮説)を立て、検査測定を実施する。	・実習指導者と学生間で"対象者の障害像と Goal 設定"を共有し、理学療法評価に必要な情報収集と適切な医療面接を実施する。 ・基本動作から対象者の抱える活動レベルの問題点を分析し、心身機能・身体構造との関連に臨床推論を立て、検査測定を実施する。 ・問題点の優先順位を考え、Goal 設定との繋がりを理解する。
4 年 次	長期実習の目標は、3 年次までの学内教育および 臨床実習で得た知識と体験を活かして"対象者の 抱える問題点把握・Goal 設定・治療プログラム作 成・効果判定"との一貫性を理解することである。ま た精神運動領域では"見学・共同参加・監視"の段 階を経て、理学療法治療の体験に至る。本実習を通 じて多職種連携の観点を学び、チームとしてのアプロ ーチについても経験する。	・実習指導者と学生間で"対象者の障害像と Goal 設定,治療プログラム"を共有し,トップダウン評価から得られた対象者の問題点を把握する。 ・対象者の抱える問題点把握と Goal 設定,治療計画の一貫性を学び,臨床実習指導者の指導の下に理学療法を体験し,効果判定を実施する。 ・多職種連携を経験し,医療保険並びに介護保険制度,予防医学の観点を踏まえた幅広いチームとしてのアプローチを経験する。